［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4171100185
法人名	有限会社 ラポール
事業所名	グループホーム神埼ひだまり
所在地	神埼市神埼町竹4694番地1 （電　話）0952-52-8818

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1－1224－2		
訪問調査日	平成 19年10月2日	評価確定日	平成 19年11月14日

【情報提供票より】（19年9月15日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　16　年　7　月　1　日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	7　人	常勤 2 人，非常勤 5 人，常勤換算 3 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての　1 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	9,000　円
敷　金	有（　円）		�無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） �無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200　円	昼食	300　円
	夕食	300　円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（9月15日現在）

利用者人数		9 名	男性	0 名	女性　9 名
要介護1		1　名	要介護2		5　名
要介護3		2　名	要介護4		1　名
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均	88.4 歳	最低	83 歳	最高　97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	橋本病院、佐賀記念病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐賀平野の田園地帯の集落に位置し、入居者はゆっくりとした空間のなかで生活されていた。入居者一人ひとりのペースに合わせるため、職員は決して入居者を急がせることなく、それぞれの役割を持ってもらいながら家庭的な雰囲気を作られていた。また、ホームとしても地域住民の方との交流を公民館の活動等を通して行っており、入居者は地域住民の一員として生活されていた。
運営理念にもある「ともに笑い、ともに悲しみ、ともに歩む」が入居者や職員にも馴染んでおり、食後の団欒等といった時にも笑い声が絶えないホームであった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） グループホームという小規模の機能性を活かした個々への対応を行なっており、「自宅に帰る」ことを念頭においた生活づくりに取り組まれていた。また、全職員が一体となって運営理念に基づいた支援や姿勢を継続できるように関わりを持たれていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 全職員でサービス評価の目的や内容を確認し、サービスの自己評価へ取り組んでいた。また前回の外部評価の結果等を踏まえ、サービスの質の向上に向けて、どのようなホームを作っていきたいかを考え、改善事項の検討を行われていた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 推進会議の開催にあたって、参加者の調整面では難しい点もあるが、会議内容等に応じた参加者の呼びかけを行なうといった工夫が期待される。また、内容に関しても報告だけでなく、地域住民の方等へホーム内での困りごと等を提案し、ホームの活動に参加できるような会議の運営も望まれる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 月一回の定期連絡の他、適宜、日常の生活状況や健康状態を電話連絡や面会時に伝えるといった個々に応じた報告がなされていた。面会時や運営推進会議、行事の時等で家族が訪問された際に意見を聞く機会を設けている。また、玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できる体制作りが取り組まれていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 区長は入居者を地域住民の一員として、地域の行事、活動に参加するように声かけが行われていた。また、ホーム側も積極的に地域活動に参加し、地域住民との交流が図られていた。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「共に喜び、共に悲しみ、共に歩む」を理念として掲げて、地域の中でいつまでも安心して生活されるように取り組まれていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、管理者と職員は理念を十分理解し、在宅復帰に向けて地域の中での生活を支援されていた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区長さん等は入居者を地域住民の一員として、地域の行事、活動に参加するように声かけされていた。ホーム側も積極的に地域活動に参加し、地域住民との交流が図られていた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の目的や内容を全職員へ伝え、全員で自己評価に取り組まれていた。また、外部評価の結果等を踏まえ、サービスの質の向上に向けて、改善事項の検討が行われていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域住民、市担当者へ案内を出し、運営推進会議を開催し、ホームでのサービスや行事の取組状況等の情報提供を行われていたが、決まったメンバーによる定型的な会議内容となっていた。	○	推進会議の開催にあたって、参加者の調整面では難しい点もあるが、会議内容等に応じた参加者の呼びかけを行うといった工夫が期待される。また、内容に関しては報告だけでなく、地域住民の方等へホーム内での困りごと等を提案し、ホームの活動に参加できるような会議の運営も望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催の地域ネットワーク（ケアネットかんざき）に参加し、市担当者、福祉事業所等との関わりを持ち、地域のサービスの質の向上に取り組まれていた。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の定期連絡の他、適宜、日常の生活状況や健康状態を電話連絡や面会時に伝えるといった個々に応じた報告がなされていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、行事等で家族が訪問された際に意見を聞く機会を設けられていた。また、玄関に意見箱を設置し、家族からの意見を反映できる体制作りがなされていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの職員による支援が基本とされているが、やむを得ない理由等により離職する場合においても、入居者が普段通りの生活を過ごし、心配や不安を抱かれないように配慮がなされていた。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では管理者等が職員に対してアドバイスできるような体制があり、ホーム外の研修にも参加できる機会を設けられていた。また、ホーム外の研修参加時には他のスタッフへ研修の情報提供を行なうといった伝達講習も行われていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークでの研修会等に参加することで、地域の事業者と交流する機会が設けてあり、相互の関わりを通してサービスの質の向上を図る取り組みがなされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が安心してサービス利用ができるように、利用前の見学や面談を通して納得して契約されていた。また、家族等から事前に情報収集を行い、ホームの雰囲気に慣れるように積極的な関わりが図られていた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と職員がお互いに認め合い、一方的な関係にならず、日常生活や行事等を通して一緒に過ごす関係性が築かれていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の生活の様子等を本人や家族から情報収集し、入居者本人が望む生活が送れるように支援されていた。また、希望などの把握が困難な入居者に関しても、事前に情報収集を行い、生活の中に役割を持ってもらいながら、その人らしい生活の支援が行われていた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者本位の生活となるように、本人、家族から意向を確認することはもちろん、職員に対しても適宜、アセスメントや意見交換を行いながら介護計画を作成されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施状況、効果等を評価し、期間に応じて本人や家族の意向を踏まえ見直しが行われていた。また、急に入居者の状態が変化した場合の見直しについては家族等の意見の反映が不十分であった。	○	状態の変化等においても本人や家族の意向の確認を行ない対応できるような体制作りが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の希望に添えるよう十分な話し合いを行い、通院や外出等の必要な支援は柔軟に対応し、一人ひとりのニーズを満たせるような取り組みがなされていた。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外にも、以前からのかかりつけ医の希望があれば、本人や家族の希望に添うように対応されていた。また、その医師とも連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化や急変した際に、その都度、家族や医師と連携をとりながら対応していたが、ホームの対応方法等の指針の作成はできていなかった。	○	入居者の状態が重度化や急変した場合も想定して、早い段階よりその対応を検討しておくことが期待される。また、その際にはホームとしてどのような対応ができるか、ホームとしての指針を示すことが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーに気をつけ、羞恥心や自尊心を傷つけないように言葉かけや対応が行われていた。また、個人情報保護の観点からも記録の取り扱いには適切な対応が取られていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等の取り決めはなく、入居者が過ごしたいように生活されていた。また、以前からの生活や希望を本人や家族に尋ね、本人の意向を尊重した生活ができるように取り組まれていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も楽しく摂れるように会話をしながら職員も一緒に食べられていたが、食材の買い物から入居者ができる関わりを持てるような支援が十分ではなかった。	○	食事を楽しむことのできる支援として、配膳や下膳、片付けのお手伝いだけではなく、買い物や献立の立案、調理といった食事に関する一連の活動にも入居者が関わっていけるような取り組みが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりに声かけを行ない、入りたい時に時間を合わせて、入浴の支援を行われていた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や入居者個人の能力を活かせる役割を日々の生活の中で持てるような取り組みが行われていた。また、好きなことや楽しみごとを自由にできるように支援されていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中をホーム内だけで過ごすのではなく、本人の希望や声かけにより、庭や集落内へ自由に散歩に行ったり、外出（ドライブ）ができるような取り組みが行われていた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵をかけず日中はいつでも外出できるように開放されていた。また、居室も安全面への配慮から鍵の取り付けは行われていなかった。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練が行われており、消防署との連携が図られていた。また、地域の方への協力が得られるように働きかけも行われていたが、地域の参加が十分ではなかった。	○	いつ何があっても対応できるように、様々な想定での避難訓練を実施することが望まれる。また、訓練においてもホームだけの訓練ではなく、地域住民の方にも参加してもらう等の協力体制の構築が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食物繊維を多く摂取する等、栄養バランスや個人に応じた量を考えて提供されており、水分量もチェック表等を活用して一人ひとりの摂取量を把握できるように取り組まれていた。また、職員が介護食士の資格を取得する等、先進的に取り組まれていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた雰囲気を作るために花を飾ったり、生活感のある家具を置いたり、居心地を重視して取り組まれていた。また、他の入居者に支障がない範囲で、入居者一人ひとりに対応できるような居場所を考えた共用空間づくりに取り組まれていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりが使い慣れた家具や日用品を自由に持ち込まれており、本人が安心して居心地良く過ごせるような居室作りがなされていた。		